



男女共同参画情報誌

# あなたとわたし

vol.66

性別や年齢、国籍などの違いを超え、平等とともに手を携える関係でありたいから

特集  
座談会

## アンコンシャス・バイアス とは何か

言葉の表現から見える  
アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について



### 「あなたとわたし」デジ版について

目の不自由な方で、デジ版CD版「声のあなたとわたし」を希望される方に配布します。ご希望の方はお申込みください。

【問合せ】福生市生活環境部協働推進課  
電話 042-551-1590

アンコンシャス・バイアスとは、誰しもが持つ「無意識の偏見・思い込み」のこと。

私たちは、「過去の経験」や「見聞きしたこと」に影響を受けて、知らず知らずのうちに、“きっと、こうだ”と思い込んでいることや、性差や男女の役割について偏ったモノの見方をしていることがあるかもしれません。

# アンコンシャス・バイアスとは何か

言葉の表現から見える

アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について

「男女共同参画社会」を目指す中で、現在も根深く残る性別による固定的な役割分担意識の解消が課題となっています。今回は幅広い年代の男女6名に集まってもらい、課題解決に向け率直な意見交換を行っていただきました。



Aさん  
(30代男性)



Bさん  
(20代女性)



Cさん  
(40代女性)



Dさん  
(50代女性)



Eさん  
(60代男性)



Fさん  
(40代女性)

**司会** 「言葉の表現から見えるアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について」、これから皆さんと意見交換をしたいと思います。まずは皆さんに《クイズ》をしていただきます。クイズの内容から、あなたならどの性別を想像しますか？

## 《クイズ》

「私は夢だった保健師になり、小学校の保健室で働き10年が経ち、育児のための時短勤務も取得しながら仕事はとても充実しています。(a)

8年前に結婚したパートナーは大学を卒業後、消防士として毎日朝夜に忙しく働いています。(b)

結婚当初は育児・家事は一緒にと約束していましたが保育園の送迎や家事のほとんどを1人でこなしています。(c)

まもなく小学生になる子どもが赤い色のランドセルを欲しがって(d)おり、家族で買いに行きたいのですが、家庭よりも仕事を優先するパートナー(e)とはすれ違いの日々で、思い描いていた結婚生活とはほど遠い毎日です。」

以上の内容から、次の2点について皆さんはどのように想像しましたか。

## 問①

皆さんは、保健師として働き、時短勤務をして育児家事を行っている(a)・(c)の行動から、また、大学を卒業後、消防隊員として毎日仕事を優先しているパートナーの(b)・(e)の行動から、男・女どちらを想像しましたか？

**Aさん** 保健師は妻。男性が多い仕事なので、消防隊員は夫と思いました。

**Bさん** 保健師は女性。時短勤務をしているのは女性とイメージがあるので。消防士は男性と思いました。

**Cさん** この質問に少し違和感を感じました。この質問は男と女という設定ですが、今は男と男、女と女でも有りの

時代ではないかと。ご苦労はあっても少しずつ今では認められてきたのでは。

**司会** 多様性のことを考慮するともっともですね。

**Dさん** 最初はAさんとBさんと同じように思いましたが、今では色々な組み合わせもあるのかと思います。自分の経験から男性の保健師は知らないのですが、女性の消防隊員を知っているの、どちらでも違和感はありません。

**Eさん** 自分の経験から保健師は女性と思いました。また、男性で完璧な主夫をしている人も知っているの、さまざまですね。最近観た映画が、政治家の男性が男性とパートナーとなり、友人の女性に代理母を頼んで子どもを得るというものでした。こういった経験から、少しずつクイズに対するイメージも多様化してきていると思います。

**Fさん** 保健師は女性、消防士は男性だと思いました。小学生女兒は体の変化もあり、男性の保健師には相談しにくいこともあると思うので、保健師は女性と思いました。

**司会** 現実として、アンコンシャス・バイアスの視点が入ってしまうことがあります。福生市の職員には男性保健師がいますし、女性の白バイ隊員、主夫という実例もあるのですが、出来上がっている先入観があるのでしょうか。

## 質問②

まもなく小学生になる赤い色のランドセルを欲しがっている子ども(d)は、男の子と女の子のどちらを想像しましたか？

**Aさん** どちらも想像できました。赤いランドセルの男の子もいますが、自分の子ども時代は男は黒、女は赤でした。

**Bさん** この文章だけでは男女どちらもとも言えませんでした。私の小学生の頃、一人だけ濃い緑のランドセルの男の子がいました。ヒーロー物の番組でリーダー格は赤色だったので、むしろ男の子が赤いランドセルを欲しがるかと思いました。

**Cさん** 今は紫とか自分で好きな色を選べるので、男の子の色、女の子の色というのは無いのかもしれない。

**Dさん** 皆さんと同じで、赤か黒かの選択しかありません

でしたが、今はカラフルで良いも悪いもないようです。

**Eさん** 男の子の色、女の子の色がなくなった理由はどこにあるのでしょうか。ランドセルは一つの象徴ですが、服だともっと自由になっていますね。

**Fさん** 誰がランドセルの色を決めているのか、本人なのか、親なのか、祖父母が孫に買ってあげるといったケースもありますね。実際、女の子は赤に限ってはいないけれど、男の子は黒が多いです。子どもの中のアンコンシャス・バイアスと言えるのか、「男の子なんだから」という何かがあるのかもしれない。

**司会** 今までのお話を踏まえて、内閣府が令和4年8月にインターネットで実施した「性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査結果」の概要版の中からいくつか皆さんと意見交換したいと思います。

本調査の対象は、全国の20~60代、回答者数は、10,906人(男5,452人、女5,384人、その他70人)となっています。

## 引用1

「1 性別役割意識(全体)から見える男女の意識」については、上位に入った3項目までが男女ともに同じであることがわかりました。

男性	回答者数：5452	(%)	女性	回答者数：5384	(%)
1	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	48.7	1	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	44.9
2	女性には女性らしい感性があるものだ	45.7	2	女性には女性らしい感性があるものだ	43.1
3	女性は感情的になりやすい	35.3	3	女性は感情的になりやすい	37.0

**司会** この結果についてどのように思われますか。

**Aさん** 1に関しては母が専業主婦だったので納得するものがあります。2・3は性別というよりも個性ではないでしょうか。

**Bさん** Aさんと同じです。男女というよりも個々の性格と感じます。女性は感情的になりやすいというよりも感情に敏感になるのだと思います。子どもを産み育てる経験の中で赤ちゃんの感情に気付きやすいのだと思います。

**Cさん** 1は日本では仕方がないです。同じ仕事をして男性の方が給与が高い、という状況があるので。2は子どもを産み育てるという、男性とは異なる役割があり、生物学的に違うものがあり、否定的にとらえることはありません。3はそんなものという話もありますが、性別の問題とは違うと思います。

**Dさん** 上位3つが同じとは意外でした。

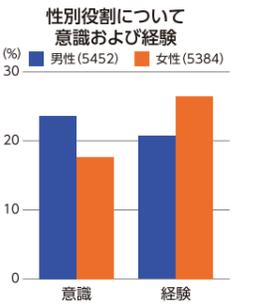
**Eさん** 同感です。男の方が給与が高いのは、日本の家父長制の反映ですよ。家父長制を維持したい人は男女・同給料にしたがらず、若い世代は現状追認のあきらめではないでしょうか。

**Fさん** 20代、30代は出産・育児の時期があり、どちらが家計を支えてもいいのだけれど、出産は女性しかできませんから。2に関して、私は、デザイナーという仕事柄、女性らしいデザインを求められることがあります。作品の良し悪しは性別ではなく、本人の問題です。これもアンコンシャス・バイアスですね。

## 引用2

「2 男女差で見えるアンコンシャス・バイアス」についての結果から、全項目の平均で「性別役割意識」は男性が強い一方で、直接言われたり態度などから感じた経験は女性の方が多いです。

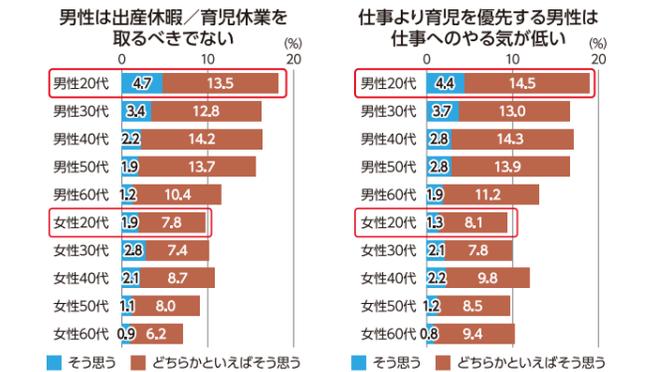
また、男性はこの反対で、直接言われるなどの経験は少なく、伝統的な役割感にとらわれていることに気づいていないことが伺える結果となっています。



## 引用3

「3 職場項目における性別役割意識」の回答結果について、20代の男女間で大きな差が見られています。

この結果から、若い世代での育児休業の考え方について男女に大きな差が生じていることがわかります。



**司会** 引用2、3の結果について続けてお示しましたが、皆さんはどのように思われますか。

**Aさん** 男性の育児休業については、未来を担う子どもを育てることは大事であり、心に留め置くべきことです。

**Bさん** 20代の男性の約2割が、仕事よりも育児を優先することに、仕事への意欲が低いと回答していることに驚きました。

**Cさん** 伝統的な役割感に囚われていることに気づいていないのは、団塊の世代~高度経済成長の時代を経て、その子どもも親と同じように育てられているので、その影響の現れではないでしょうか。「男性は働いて家庭は女性に任せる」という価値観が続いています。学校は男女平等なのに社会に出ると、そうでもなく。結果、男女が食い違って女性は一緒に育児して欲しいと思っているのに、そうすると結婚したい人が減るのかなあと。男女で結果が違うというのが問題ですよ。

**Eさん** 下の世代は大変な思いよりも給与が低くても、もう少し楽しく働きたいという傾向が強くなったように感じます。育児休業を取るよりも、会社で働いているほうが楽だと思う男性もいるのかもしれないですね。

**Fさん** 20代の上司にあたる40代、50代の傾向も同じですね。

**司会** 制度が充実していても、周りの環境もあり、なかなか制度を使えないのかもしれないですね。

**司会** 今までの皆さんの意見から、アンコンシャス・バイアスとは何が問題でしょうか。改善策は？



**Aさん** 自発的意思を阻害してしまうことで生かされる力が生かされず、社会の停滞を招くのが問題です。

**司会** 何が根本的原因だと思いますか。

**Aさん** 社会というより政府・職場・親・妻だったり、夫だったり、一人一人の感性・倫理観・常識・法的観念とかを照らし合わせて、もう少し緩く受け取っていくのがいいのではないのでしょうか。

**Bさん** アンコンシャス・バイアスという語が出てきて、良かった点も悪かった点もあると思っています。いつも悪だとは限らないです。



**Cさん** アンコンシャス・バイアスで問題なのは、その人の持っている潜在能力をつぶしてしまうということです。例えば女性は結婚して家にいるほうが幸せだという決めつけがあると、世の中で活躍出来なくなることが起きます。男性でも家になりたいという人がいても、そんな訳にはいかないということが起きますよね。その人の幸せを壊してしまうかもしれません。

**司会** 改革には最初の一人になる勇気が必要ですね。

**Cさん** 社長や上に立つ者が率先して、産休や有休を取ればいいんですよ。会社の皆が取りやすくなります。

**Dさん** 知らず知らずのうちに自分で自分に制限をかけて、その人らしさを失わせてしまうことが問題だと思います。



**Eさん** アンコンシャス・バイアスという言葉が由来たことで問題がはっきりしますので、それが良かったと思います。川は上流から濁ると言います。例えば政治家の半分は女性というクオータ制の導入が良いと思います。制度として作ってしまいましょう。改革は簡単ではないと思いますが…。

**Fさん** 大きく変えるのは難しいですね。私は娘に「女の子なんだから」という言葉を使わないようにと思ってきましたが、つい「女の子なんだから、部屋を綺麗にしなさい」とか言ってますね。



**司会** 性別ではなく個性として考えていくこと、性別での制約は、その人の能力をつぶし、やりたいことが出来なくなります。

時代とともに当たり前とされていたことが当たり前でなくなることがあります。正解は一つではないですね。

〔まとめ〕 今回の座談会ではアンコンシャス・バイアスをテーマにしましたが、世代間ギャップがそれほど大きくなく、無意識の思い込みは、家庭や社会生活の中で自然とすり込まれていくものであることがわかりました。日常ですり込まれていく内容が、反対に無意識の偏見に対する気付きとなっていけば個人の思いの尊重や多様性への理解へとつながるのではないのでしょうか。

社会にはさまざまな考えや立場の人がいるということを意識して、誰もが生きやすい社会を目指していきましょう。

企画・デザイン・印刷

有限会社

あっぷ  
印刷工房

Tel. 042-539-7685

Fax. 042-539-7686

mail. upf-2@tbe.t-com.ne.jp

「あなたとわたし」の  
編集員を募集しています!



誌面の企画や編集、また取材などに興味がある方、何かやってみたい方！経験は問いません。

(無償ボランティアです。)

ご意見、情報もお待ちしています！

問合せ

福生市 生活環境部 協働推進課

電話 042-551-1590

編集  
後記



●最近のテレビCMで「聞こえてきたのは男性の声ですか?女性の声ですか?」と言う無意識の偏見への気づきを啓発するものがありました。まず、自身のセルフバイアスを取り払うことで、他者への「こうであるべき」という考えをやめることができるのではないかと思います。多様性を認め合える社会の実現に世の中が大きく動いてきているのを感じます。…………… [M]

市民編集員

田中 直美、正木 直美 (50音順)

作製・編集: (有)あっぷ印刷工房

あなたとわたし vol.66 2024年1月発行

発行: 福生市 生活環境部 協働推進課

〒197-8501 東京都福生市本町5番地 電話042-551-1590

<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>



再生紙を使用しています